

## 「ともいき京都1周年記念イベント」報告書

ともいき京都  
代表 田村恵子  
2016年10月

「ともいき京都1周年記念イベント」事業が完了したので、下記のとおり報告致します。

### 記

(1) 件名 「ともいき京都1周年記念イベント」

(2) 会場 カトリック河原町教会

(3) 日時 平成28年7月9日

(4) 看護師などのボランティア45名、参加者 計 290名  
講師

|   | 所属                  | 職名            | 氏名                    |
|---|---------------------|---------------|-----------------------|
| ① | 風鈴社                 | 女優            | 石田ひかり                 |
| ② | 河原町教会               | オルガニスト        | 桑山彩子                  |
| ③ |                     | ピアノ演奏         | 前滝康彦                  |
| ③ | ぎんなんの会              | がん体験者         | 辻恵美子                  |
| ④ | 身体でイメージを形にするワークショップ | がん体験者         | 松田裕樹                  |
| ⑤ | 紫音                  | 声楽家・がん<br>体験者 | 藤花優子<br>堀田百合子<br>中山節子 |

## 1. 開催報告書

ともいき京都をはじめ1年が経過し、これまで参加いただいた方々への感謝とさらに広くともいき京都を理解いただき発展させていくための節目として、1周年記念イベントを河原町教会にて開催させていただきました。寄せていただいたお言葉や詩の朗読、音楽や合唱が効果的に融合でき、癒しや共に過ごす心地よい時間となり、また、ともいき京都の活動の必要性や新しいこの活動の可能性を感じる貴重な時間を過ごすことができました。

本イベントは、ともいき京都でも協力いただいている看護師などのボランティア45名の力を結集し運営することができた。また、司会やがん体験のお話し、音楽の共有と10名の方々にご登壇いただき、温かく手作りでプログラムを進めることができた。3時間の及ぶプログラムでの参加者は、1部の音楽と語りの集いには総勢234名、2部での懇親会にも100名以上の方々がお集まりいただき、ともいき京都への期待や協力について多くのお言葉をいただくことができた。参加者はもともとともいき京都を知っていた方や知人に誘われた方が70%をしめたが、チラシやホームページを通して本イベントを知り参加して下さった方も24%ほどおられた。また、がん体験者は48%、家族が17%、友人が7%であった。

ボランティアからは、以下のような感想が寄せられている。

- ◆ プログラムはとても興味深く、パイプオルガンがすばらしかったです。
- ◆ スタッフの御揃いの「ともいき京都Tシャツ」がよかった。
- ◆ ボランティアの人と一緒にお手伝いできて仲間同士の絆につながりました。
- ◆ 多くの方が参加いただき、ともいき京都が社会的に必要とされていることを改めて感じました。
- ◆ 参加者の方の笑顔が見られ、みんなで作り上げたという実感がしました。
- ◆ 1人1人体験（がん体験）は違ってもともいき京都の場で出会い、自分の体験を語り、また誰かに聞いてもらうことで、新しい自分に出会ったことを参加された1人1人の顔を見て伝わってきました。
- ◆ 人が成長したり、生きる力を取り戻す瞬間に関わらせていただくことで、私達も幸せな気持ちになりました。
- ◆ たくさんの人に支えられているのを実感しました。

## 2. イベント実施状況写真



### 3. 参加者の感想

#### 1) ともいき京都 1 周年イベントに参加して

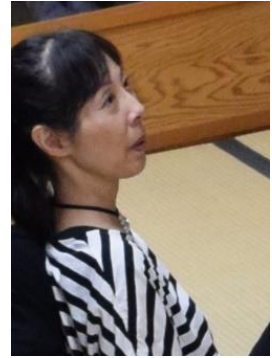
高橋 真依



私はともいき京都に参加させていただくなかで一番感じていたことが「温かさ」でした。それは来られている方々、スタッフの方々、風伝館のすべての雰囲気があるように感じさせてくれているのだと思います。今回のイベントでは教会ということでまたいつものともいきとは違いましたが、ステンドグラス、パイプオルガンの音色に包まれ華やかかつ温かみのある素敵な会でした。ご講演くださったお二方、素敵な音楽を届けてくださった紫音のみなさんを見て、病気と闘いながらも自分のすべきことに向かってそれを実現されておられる姿に感銘を受けました。同じように病気を経験した方のお話しだからこそすごく共感できることもあり、また石田ひかりさんの朗読もすごく心に残りました。これでいいのだ…。当たり前のことを気づかせられるフレーズばかりでした。私自身、病気になったことで価値観や人生観が大きく変わりました。自分が生かされている意味は何なのか、使命は何なのかを考え、当たり前の中にある有り難さを感じるようになりました。しかし働きはじめて私は自分の夢を叶えているのにもかかわらず、毎日をこなすことに必死になり、病気が教えてくれた一番大切なことを忘れかけていました。しかしそのことを今回のイベントで再確認することができ、こころ温まる幸せな時間を過ごすことができたと同時に明日からまた頑張ろうという勇気と希望をいただきました。

## 2) がんと共に、仲間と共に

菊池久美子



病との上手い共存共生。それを望むがん患者は少なくないでしょう。病と向き合いながら、「頑張らない」ことの大切さ、「楽しいひととき」の大切さ、を私たち患者は痛切に実感します。

私たちのそんな思いを受け止めてくれる交流スペース「ともいき京都」が誕生したのは、2015年7月のこと。月に2回現れるオアシスと言っても過言ではありません。「なぜこんなに居心地がいいの？」ある時、その訳がわかりました。

そこは単なる交流の場ではなかった…創設者、田村先生の長年に渡るホスピスでの経験を、そのままコンセプトにした「憩いの場」だったのです。しかも「ともいき」では、医療に携わるプロがボランティアスタッフとして、訪問者にいつも優しく対応してくれます。だから私たちががん患者は、迷うことなく「がん」を語り、時には「がん」に不安を覚え、しかしながら「がん」で笑うことが、そこではごく自然に出来るのです。

2016年7月9日、「ともいき京都」の1周年記念イベントが催され、参加しました。田村先生、並びにスタッフの皆さんの思いの強さを、改めて認識する機会となりました。

日本人の約半数が患うという病。にもかかわらず「がん」という響きに、社会は先入観と共に反応します。がん患者にとって「ともいき」の必要性は、今後益々大きくなることでしょう。故に、スタッフ皆様のご活躍、そして「ともいき」の発展を、心から願わずにはられません。